

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インドの鼻スプレー型ワクチンは Game Changer になるのか？」

★★

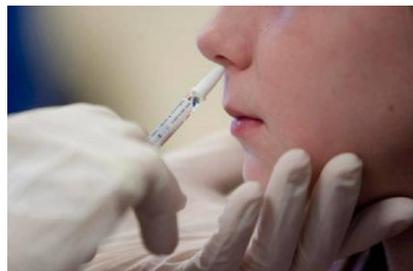
インドは世界のワクチン生産の約 6 割を担うワクチン大国です。新型コロナウイルスワクチンでは、既に Covishield, Covaxin, Sputnik V, Moderna, J & J, そして ZyCov-D の 6 種類が、医薬品規制当局から緊急使用許可を受けていて、そのうち Covaxin と ZyCov-D は純国産です。

この中で最近大きなニュースになったのは、アーメダバードにあるザイラスキャディラ社が開発した ZyCov-D で、これは 12 歳から 18 歳までの若年層向けにインドで認可された世界初の DNA ワクチン（新型コロナウイルスの遺伝子を含む DNA を直接投与し、体内で同ウイルスのタンパク質を作らせることで免疫システムを活性化させる方法）です。

モディ首相は 8 月 20 日のこのニュースに、「輝かしい偉業だ」、「インドの科学者の革新的な熱意の証明だ」と賞賛を贈っています。その投与方法もインド初で、左の写真のように PharmaJet と呼ばれる針なし注射器を使用し、微細なジェット流で薬液を皮下注射するものです。痛み、恐怖からの解放や医療事故、廃棄物の削減に大いに役立つばかりでなく、温度管理も 2~8 度で可能なため運搬や貯蔵が容易です。



PharmaJet によるワクチンに皮下投与



鼻スプレー型ワクチンの投与

そして、モディ首相や WHO が新型コロナウイルスとの闘いを根本から変える存在 (Game Changer) として、更に大きな期待をかけているのが右の写真の鼻スプレー型ワクチン (BBV154、アデノウイルス鼻腔内投与) です。ハイデラバードにあるバーラト・バイオテック社が、米国ワシントン大学の協力を得て、近々臨床第 II、III 相試験に進むと見られます。

同社のクリシュナ・エラ会長によれば、今までの筋肉注射によるワクチン接種だけでは、肺の下部は防御できても、上部と鼻は守れないとのこと。また、

インドの規制当局の援助があれば、アメリカや中国よりも早く、インドが世界で初めてこの鼻スプレー型のワクチンを世に出すことができるとも言っています。そしてそれは早ければ年内かもしれません。

このワクチンは、注射型よりも優れた免疫作用をもたらし、感染を防ぐだけでなく、ウイルスの伝播の確率も大幅に低減させるようです。加えて、副反応も少なく、自分で接種ができ大量生産も可能です。既存ワクチンのブースターとしても注目されています。